



「日韓経済協会」が主催する『日韓高校生交流キャンプ』に本校から初めて2名が参加し、7月27日から31日までソウルで、韓国の高中生達と様々な活動をしてきました。参加した高校1年生の浅野君と稲澤君にその報告をしてもらいます。(プログラム内容についてはホームページをご覧ください。)

### 伝えきれない5日間の交流

浅野 悠

5日間、私は韓国に行き、日韓高校生交流キャンプに参加してきた。このキャンプでは、ベースとして日本と韓国で行えるビジネスプランを考え、発表するということが目的であり、国際交流、文化交流ではもちろん、起業という面でも大変有意義な時間を過ごせたと思う。私にとって、英語で通じない人と交流することは初めてのことで、コミュニケーションに大変苦労したが、言語の壁を乗り越えるということの意味を知ったきっかけでもあった。

初日、韓国の高中生との交流はキャンプのメイン会場のドアを開けた時から始まった。韓国人側と日本人側、表情はどちらも笑顔だったが、話すのは韓国人同士、日本人同士というケースが多く、仲良くできるのか不安もあった。しかし、優しいメンターのおかげでだんだん日本人と韓国人が話すようになっていき、初日に行われたチームの掛け声の練習、チームのポスター作りなどで本当に初日だけで、不安のようなものは全てなくなったと言っても過言ではない。夜は同じチームの韓国人二人と私含めて日本人二人の部屋で寝たが、言語なんていう壁を乗り越えて、ずっとみんなで笑っていた。

2日目、3日目は経済体験とこのキャンプのメインでもある事業案計画、ブース作りを行った。経済体験では、韓国の飲食店に行き、企業の工夫している点など日本とは異なった環境での企業のあり方などを体験できた。これらをもとに、事業案を高校生ならではの発想を取り入れながら、計画を夜遅くまで練った。ブース作りはどのように事業を紹介していくかを考えながら、チームで工夫して作った。

ブース作りなども、話しながら行って十分楽しかったが、私がこのキャンプを今までにないくらい楽しめたのは、やはりゴールデンベル(クイズ大会)や伝統遊びなどがあったからだと思う。2日目にあったゴールデンベルでは、二人一組のチームになり日本人と韓国人、双方の力を合わせて私のチームは準優勝できた。ゴールデンベルで組んだ韓国人とは異なるチームにもかかわらず、キャンプ後も本当に仲が良く、いい友達を作れた。

伝統遊びは韓国の伝統的な遊びを体験し、同時に日本の伝統遊びを紹介するというものだった。文化交流という面で知らないことを学べよかった。本当に5日間だけでありえないほど仲が良くなり、特にチームメンバーはみんなが私の親友のような存在になった。

最後の別れの時は、みんな泣いていた。私は、バスに乗る前までは涙をこらえていたが、バスの中から親友である韓国人のチームメンバーを見た瞬間、号泣した。空港に着くまでずっと泣いており、別れの辛さを痛感した。この感想文を書いているチームメンバー全員に会いたいと思う。今でも、SNSを通して交流をし、ビデオ通話も行っている。これからもつながりを大事にしていきたいと思う。

このキャンプで国際交流の楽しさ、日本と韓国の違いや共通点などなど数え切れないくらいたくさんのお話を学べた。

ビジネスを考えていく間、異文化であると感じたこともあった。日本には当たり前のことが韓国

ではそのようなビジネスがなかったり、逆にいいビジネスを思いついたと思い、自信满满で提案しても韓国では当たり前前のビジネスであることなどが多々あった。また、ブースを作っている時、国民性の違いを感じたこともあった。日本人は繊細なことに目が行き、時間を多少かけてでも質にこだわるところがあるが、韓国人は全体的なざっくりとしたイメージを大切に、時間には厳しい。他のブースではこれらにより日本人と韓国人間で衝突が見られた。しかし、このような国民性、異文化を体験することによって将来、ビジネスパートナーとして付き合う際、お互いを知った状態で付き合うことができ、同じような衝突が起きにくくなるだろう。今後も異文化をもっと知ること、体験することの重要性を痛感した。

韓国と日本は本当に似ているところがあり、国交正常化50周年を迎えた今、交流を深めていかなければいけないと感じた。政治的には良くない関係が続いているが、韓国と日本は内面的には本当に親しみやすい。これからも韓国について学び、交流を続けていきたい。キャンプについて、なるべく多くの人に経験を発信していけたらとおもっているので、気軽に声をかけてください。

参加者にはもちろん、主催して下さった日韓経済協会、そしてキャンプに携わって下さった皆様に感謝し、この経験を未来に役立てていきたいと思う。ありがとうございました。



### 語学力の大切さを実感

稲澤 貴之

今回の日韓高校生交流キャンプに参加して、最も印象に残ったことのうちのひとつは、韓国の高校生の語学力の高さでした。母国語である韓国語はもちろん、英語もすごく流暢だったし、日本語を話すことができる人もたくさんいました。体感的には半分以上の韓国人高校生が日本語でも話していたような気がします。英語に至っては、話せるのが凄いというよりもむしろ、話せて当たり前、というような感じでした。同じ部屋だった高校二年生の韓国の高校生は、僕や友人の英語をちゃんと理解して話してくれたので、五日間特に母国語が異なり日本語が通じないという不便さはあまり感じることなく過ごすことができました。

また、語学力に限らず、韓国の高校生のレベル自体の高さも感じることもできました。特にそう実感したのは、事業アイテム案を考えているときでした。僕たち1 TEAMでは、話し合いの効率などを考えて日韓の高校生に分かれてある程度まとめてから意見を交換する、という形をとっていましたが、日本人チームの話し合いがなかなか進まなかった時に、韓国人チームはすでに次のテーマの話し合いを始めていたのです。噂には聞いていましたが、実際に韓国の高校生のレベルの高さを体感し、尊敬すると同時に、日本人の高校生のうちの一人である僕も学びや勉強に対するこれまでの態度に危機感を感じ、見直さなければならないと思いました。

楽しかったこと、嬉しかったこともたくさんありました。

まずは、英語で意思疎通ができたことです。中1から勉強してきたことが実際に活かされたのはとても嬉しかったです。今度はもっと正確に言いたいことが言えるようにもっと英語を勉強したいと思いました。

次に、韓国の高校生が日本語で話しかけてくれたのはすごく嬉しかったです。自分の母国語を理解してくれていることは、まるで日本を理解してくれているようでした。もっと韓国語を勉強しておけばよかったと少し後悔しました。今度韓国に行くときはわざわざでも話せるように

なっていたいです。

TEAM で優秀賞という結果を残すことができたのも嬉しかったです。ブースを出し終えることができただけでも達成感をかなり感じたのに、優秀賞という結果も残すことができたので、嬉しさが爆発しました。景品のスピーカーも大事につかっています。

他にもたくさんありますが、なにより、今回のキャンプに参加して友達がたくさんできたのが一番です。日本人、韓国人関係なく友達の輪が広がりました。実は、キャンプが始まる前はまさかここまで仲良くなるとは思いませんでした。だから、最後にお別れするときに涙があふれてきたときはびっくりしました。同時に、彼らは一生の宝物になったと痛感しました。

京都で開催されたAIU主催の「高校生国際交流プログラム」には3年連続で本校の生徒が選ばれました。高校2年生の右田君の報告です。

## 濃密な10日間の経験

右田 亜朗

7/29-8/9にかけて、USHSD というプログラムに参加しました。

最初に、簡単な説明から。USHSD とはアメリカの高校生 20 人が日本に来日し、京都で 10 日間合宿する国際交流プログラムです。この 10 日間の前に 3 日間の事前合宿や、2 か月前から SKYPE を使った準備があります(かなり忙しいです…)。参加者にはそれぞれルームメイトがいて、10 日間、朝起きてから夜寝るまで衣食住を共にします。もちろん公用語は英語です。そして、注目すべき点は無料だということ！ AIU 保険会社とアメリカのフリーダム財団が奨学金を出してくれます。

USHSD にはたくさんの方のアクティビティがあります。お互いの国について知識を深めたり、世界の諸問題についてディスカッションしたり、京都観光、様々なプレゼンテーション、プロムという女子をエスコートしてのディナー&ダンスパーティー…などなど、かなり濃密なスケジュールです。印象的だったものを紹介します。

### ・ Club activity

日本側メンバーが日本の伝統芸能や武道などを、アメリカ人に教えるアクティビティです。僕は古典クラブというグループで、俳句や短歌、日本古来の文章について教えました。特に、アメリカ人に俳句と短歌は人気で、良い作品がたくさん出てきました。アメリカの気持ちを表すことに重点を置いた学習スタイルによるものなのではないでしょうか。プログラム期間中、少し流行るほどでした。

### ・ Peace Discussion

世界平和の実現には何が必要かを議論しました。例えば、アメリカでは、広島と長崎に原爆が落とされたことは習っても、その惨状を書いた教科書はほとんどないらしく、このプログラムに参加して初めて知ったという人が多いことに驚きました。逆に日本の多くの教科書では、真珠湾攻撃は数行で終わりますが、アメリカはもっと長いそうです。その他にも、日米の教科書の違いが多くみられ、教育の改善が必須だという結論に至りました。

ところで、海城からは一昨年島貫先輩、去年嘉悦先輩が参加しており、僕は島貫先輩の紹介で、10 日間英語漬けでの生活を体験してみたいという好奇心から参加を決めました。

ところが、実際に行ってみると、予想を遥かに上回る体験ができました。数多くのことを学べたのももちろんですが、それ以上に素晴らしく、何よりもこのプログラムの醍醐味だと言え



るのが、本当に信用できて、ともに喜び、泣き、励ましあい、どんな内容でも真剣に話せる仲間ができることです。日米ともに選抜されたメンバーなので、みんな志高いメンバーが参加しています。なので、本音で将来の夢や悩み事を話しても、真剣に聞いてくれて、話が弾みます。そして、みんな個性豊かで、常識に捉われない考え方を持っている人ばかりです。たった 10 日間なのですが、一生継続くと思う仲間に出会えました。この体験は言葉では言い表せないです。英語の勉強や国際交流の枠を超えた体験でした。幸い、SNS が普及している時代なので、今も国や時差関係なく、毎週のようにやり取りしています(ちなみに、これも英語なので勉強のモチベーションが上がります)。このプログラムのキャッチコピーが「国際交流を超える人間交流」なのですが、まさにその通りでした。(あと、全米、日本全国に宿ができました(笑))

最後に、参加したい！と思った方へ。実は USHSD の他に HSD というプログラムもあります。こちらは、無料で渡米できて、向こうでアメリカ側に迎えてもらうプログラムです。USHSD、HSD どちらも結構倍率が高いです。英語力に関しては音単レベルの英語ができれば、何とかかなと思います。むしろ、やる気や情熱の方が大事です。もっと情報が欲しい方は 5-6 の右田まで、遠慮しないで、どんどん聞いてください。

ここまで長文を読んでいただき、ありがとうございました。

## グローバル教育部の特別英語レッスン基本内容

1 学期に引き続き、ビル先生の英語勉強会を下記のように開きます。将来 TOEFL や SAT の受験を考えている生徒諸君、あるいはもっと英語を勉強したい生徒諸君の参加を歓迎します。学年は問いません。

なお、詳細についての説明会を 9 月 11 日(金)、15 時 20 分から講堂で開催します。興味ある生徒諸君はぜひ来て下さい。(20 分程度の予定)

○担当講師 ビル先生

○水曜日後半・金曜日前半の授業 (上級)

期待される英語力：意見・思想などはたいい自由に表現ができる(特にアメリカの大学を目指している生徒)

TOEFL iBT 45-50 以上、英検 2 級以上

1. TOEFL と SAT に関して必要となる語彙を練習する
2. TOEFL リーディング・リスニングに関する質問の技を磨く
3. TOEFL スピーキングを話題から発表まで仕方・考え方・技術を学んで練習する※
4. TOEFL ライティングを話題からエッセイまで仕方・考え方・技術を学んで練習する※

※時間に制限があるため、上記の 3 番と 4 番は週によって先生次第で一つしかしない

○水曜日前半の授業 (中級)

期待される英語力：初級の語彙・文法などは理解し、基本的な会話ができる(自己紹介・家族の紹介などに関して殆ど問題なく話せる能力)

TOEFL iBT 25-30 以上、英検 3 級以上

1. 初級と中級の語彙を練習する
2. リーディング・リスニングに関するアクティビティをする
  - 例えば、日常事情に関する短い文章・会話文を読んだり聞いたりして具体的な質問に対して答える
3. スピーキングを日常話題に関して喋って練習する
4. ライティングを日常話題から短い文章まで練習する